

カナダビーフ視察ミッション 2008年(5月25～6月2日) ビジネスに直結する情報交換の旅。率直な意見交換の結論は、 今こそ長年の信頼関係に立ち、知恵を出し合って相互利益を目指すべき。

カナダビーフ輸出連合会(駐日事務所:東京都中央区)では、毎年、カナダビーフと関係の深い日本企業の皆様を、カナダビーフ視察ミッションとしてカナダにご招待。カナダビーフの生産状況、安全への取り組みから、対日輸出マインドまで幅広くご確認いただき、カナダビーフ取り扱い拡大のためにお役立ていただいています。今回は、輸入業者、販売代理店、スーパー等幅広い業種の中から、とりわけ今後のビジネス拡大に意欲的に取り組む企業7社からご参加いただきました。

全行程約1週間におよぶ視察対象は、トロント州(カーギルミートソリューション・グウエルフ工場、セント・ヘレンズ社)、ケベック州(エコレ社)、カルガリー州(XLフーズ社/ルサーン工場、レイクサイド・パッカーズ社(Tyson Foods)、カーギルミートソリューションズ・ハイリバー工場)のエクスポートメンバー企業5社6工場、フィードロット(ウェスタン・フィードロット社)や市街地にあるスーパーマーケットにもおよび、カナダ畜牛個体管理局によるプレゼンテーションや各団体・企業主催の歓迎レセプションにも参加しました。

全体議論を通しては、日本側からは、年間を通したカナダビーフの安定供給と量的な拡大を強く求める意見や、今年の冬の供給見込みなどについても多くの質問が出されました。それに対し、カナダ側からは、一刻も早く日本の輸入規制が緩和されることが、問題の全面解決への近道としながらも、現在日本向けに確保できる牛から、より多くの部位が輸出できれば、量的な拡大につながるとの意見も出されました。双方の共通認識としては、今日の世界的なビーフ供給状況を考えた場合、今こそ、日本とカナダのビーフ業界が長年築き上げてきた信頼関係に立ち、知恵を出し合い相互利益を目指すべきとの結論に達しました。

最終日には、連合会主催の晩餐会が開催され、参加メンバー一人ひとりに連合会本部テッド・ヘイニー会長から記念品を贈呈し全日程を終了しました。

<ミッションに参加して>—ミッション参加者代表インタビュー—(パートナー7月号より)

スターゼンインターナショナル(株)

関西輸入食肉部 部長 若松 威男 氏

●美しいカナダの風景、特に印象に残った点

まず、このたびお世話になった連合会関係者ならびに、美しいカナダの風景の中で交流を深めた全ての皆様に、参加者を代表して感謝申し上げます。私個人としては、今回初めて仔牛加工工場を視察することができ参考になりました。その規模、生産状況ともさすが北米一で、特に、トレーサバックシステム(キャトルIDシステム)が仔牛にも徹底されていることが印象に残りました。キャトルIDシステムについてはカナダ畜牛個体管理局のスタッフから直接レクチャーを受けましたが、政府機関と業界が一体となって安全なビーフ製品を供給しようとする姿勢には感心しました。

フィードロットの視察では、黄色いトウモロコシのしぼりかすが積まれており、「エタノールの生産に使われたものが、飼料用として再利用されている」との説明を受けました。地球温暖化問題、石油価格の高騰から、代替燃料の需要増、飼料の高騰といった、複雑に絡み合う世界のビーフ業界を取り巻く環境の一端を垣間見る思いでした。

●カナダビーフに対するこれまでの取り組みと今後のビジネス。

スターゼングループがカナダビーフを本格的に取り扱い始めたのは、1995、6年頃からで、私もその導入に関わりました。試行錯誤の末、ようやく収益ベースにまでたどりつき、さらに「カナダビーフならスターゼン」と言われるまでになりましたが、2003年以降、残念な状態が続いていました。今回の視察での経験も参考に、販売現場のスタッフ、関係者にもっとカナダビーフの現状と良さを知ってもらい、チルドだけで月間100トンを目前に、再び「カナダビーフならスターゼン」を実現したいと考えています。

●連合会活動、カナダ生産者へのご提言他

先般は、連合会の協力もいただいて「カナダビーフ・セミナー」を開催しました。今後、中堅スーパーさんと共同でのカナダビーフフェアも増やしたいと思っておりますので、様々なバックアップをお願いします。ミッション中の議論にもありましたが、カナダのビーフ生産者には、何とか、冬場も安定的にカナダビーフを供給いただけるよう、一層の配慮をお願いします。無論、我々もカナダビーフ業界の皆様の期待を裏切らないよう頑張ります。

<カナダビーフ視察ミッション/主なスケジュール>

- 5月25日(日)
19:00 成田空港よりバンクーバー空港経由トロント空港へ
- 5月26日(月)
9:15 カーギルミートソリューション・グウエルフ工場 視察①
同社 ワトソン工場 視察
13:00 セント・ヘレンズ社 訪問視察(社内売店②)
16:00 トロント市内スーパーマーケット視察
18:00 オンタリオ畜牛協会、オンタリオ州政府主催によるレセプション
- 5月27日(火)
8:00 トロント空港よりモントリオール空港へ
11:00 エコレ社 視察
18:30 エコレ社主催による夕食会③
- 5月28日(水)
7:00 モントリオール空港よりカルガリー空港へ
13:00 XLフーズ社/ルサーン工場 視察④
17:30 XLフーズ社主催による夕食会⑤/バン・ソルケマ社長宅

- 5月29日(木)
11:00 レイクサイド・パッカーズ社 (Tyson Foods) 視察
18:30 レイクサイド社による夕食会⑥
- 5月30日(金)
8:30 ウェスタン・フィードロット社(大手肥育農場) 視察⑦
10:00 カーギルミートソリューションズ・ハイリバー工場 視察
13:30 カナダ牛固体管理局によるカナダ・トレースバックシステム
についてのプレゼンテーション
16:30 カルガリー現地スーパーマーケット視察 (Sobeys)
18:00 カーギル社主催による夕食会
- 5月31日(土)
10:00 バンプ国立公園見学⑧
18:30 カナダビーフ輸出連合会による夕食会⑨
テッド・ヘイニー会長 シェニエ・ラサール副会長 出席
- 6月1日(日)
8:00 カルガリー空港よりバンクーバー空港経由成田空港へ
- 6月2日(月)
15:55 成田空港到着・解散/公式日程終了

①



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑦



⑦



⑧



⑨



※ニュースリリースは、連合会のホームページ (<http://www.cbef.jp>) にも収載しています。

お問い合わせ先：カナダビーフ輸出連合会 (担当：鬼沢) TEL:03-3546-6691、FAX:03-3546-6692、e-mail: japan@cbef.com

<カナダビーフ輸出連合会の概要>カナダビーフ輸出連合会は、1989年にカナダ産牛肉の輸出拡大を目的に、カナダのビーフ業界およびカナダ政府機関によって設立された非営利団体です。日本事務所は同年、東京に開設され、以降、日本の皆様にカナダビーフを受け入れていただくための活動を続けています。本部はカナダ、アルバータ州のカルガリー市に置いています。